

Decision-analytic refinements of the precautionary principle,

John Graham

Journal of Risk Research 4(2),127-141,2001

要約

不確かな科学技術の有害性に関する民意形成（public decision making）において、予防原則は、科学的確実性が解決するまで保護が遅れるよりは迅速な保護対策を必要としている。予防原則は、特に潜在的な危険が深刻で保護対策のコストが許容できる状況においては、決定理論（decision theory）の中にある根拠をもつ。この論文では予防原則が以下の３つの問題を解決するために、改善（refine）されるべきであることを述べている：（１）削減あるいは未然防止される暴露が有害な結論と同じくらい有益な状況、（２）保護対策がそれ自体潜在的な危険を生むであろう状況、（３）保護対策の遅れとセットになった研究基盤が迅速な保護対策よりもっと賢い民意を支持する状況。各々のこれらの問題は予防原則の適用に関する当面の政治論争と関連しているように見える。もしこの決定-分析的な改善（decision-analytic refinements）がこの原則の公式定義の中に採用されれば、民意の形成における予防原則の意義は、高められるだろう。